様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６９８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００５３５

研究課題名（和文）「近代朝鮮少年運動と韓国児童文学成立期の研究」

研究課題名（英文）A Study on the Modern Korean Youth Movement and the Establishment of Korean Children's Literature

研究代表者
大竹　聖美（Otake, Kiyomi）

東京純心大学・現代文化学部・教授

研究者番号：６０３８６７９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：1922年5月1日、方定煥は自身が結成した少年運動団体（天道教少年会）の設立一周年行事として子どもの日街頭宣伝を行った。これは朝鮮初の子どもの人権解放運動とされ、これを率いた方定煥は＜子どもの人権解放の先駆者＞として現代韓国において高く評価されている。さらに方定煥は同年7月、朝鮮初の世界名作童話翻案集『サランエソンムル（愛の贈り物）』を朝鮮語で出版し、翌年1923年3月に朝鮮初の本格的児童文芸誌『オリニ』を創刊。これをもって朝鮮近代児童文学の始点と見なすことができる。また、同年5月1日にはさらに全国規模に拡大した「朝鮮少年運動協会」が発足され、第一回オリニナル（子どもの日）行事が開催された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　1922年5月1日、現在韓国で国民の祝日とされている「子どもの日（オリニナル）」の起源とされる初めての行事が行われた。そこでは韓国児童文学の開拓者である方定煥が＜子どもの日の宣言＞を行ったとされる。それは世界的にも先進的な＜子どもの人権解放宣言＞であると現在の韓国児童文化研究者の間では主張されている。しかし、方定煥は1920～23年の間、東京に滞在し、日朝を行き来しながら、朝鮮児童文化運動ともいえる活動を行った。本研究では、特に少年運動や児童人権運動の側面から、これまで明らかになっていなかった＜子どもの日（コドモデー／オリニナル）＞に関する日韓比較研究の実証的な成果を見ることができた。

研究成果の概要（英文）：On May 1, 1922, Fang Jeong-hwan held a Children's Day street advertising campaign as an event marking the first anniversary of the founding of the youth movement organization (Tendokyo Juvenile Association) that he had formed. This is considered to be the first children's rights liberation movement in Korea, and Pang Jung-hwan, who led this movement, is highly regarded in modern Korea as a “pioneer in the liberation of children's rights. In July of the same year, he published “Sarang-eson-mul (Gift of Love),” Joseon's first collection of adaptations of world-famous fairy tales in Korean, and the following year, in March 1923, he launched “Orini,” Joseon's first full-fledged children's literary magazine. This can be regarded as the starting point of modern Korean children's literature. On May 1 of the same year, the “Association of Korean Boys' Movement,” which expanded to a nationwide scale, was established and the first “Orininal (Children's Day)” event was held.

研究分野：韓国児童文学

キーワード：方定煥　天道教　オリニ　朝鮮児童文学　韓国児童文学　近代児童文化　世界名作童話　朝鮮少年運動

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近代朝鮮児童文学の始点は、1923 年創刊の児童文芸誌『オリニ』（開闢社）に求められる。朝鮮初の本格的近代児童文芸誌として多くの童話・童謡・童話劇を生み出したからだ。『オリニ（어린이）』は、韓国近代児童文学の開拓者で、先駆的人権運動家として現在韓国で評価されている方定煥（パン・ジョンファン/방정환、1899 年 11 月 9 日～1931 年 7 月 23 日）によって創刊された。『オリニ』は、現在も韓国で読み継がれる創作童話や童謡を生み出したばかりでなく、世界名作童話の紹介、朝鮮伝来童話の発掘、歴史物語、紀行文、笑い話のほか、懸賞問題や算数問題、科学知識など広く朝鮮の子どもたちに楽しみと教養を与えた総合的な児童文化誌でもあった。

「オリニ」は朝鮮語で「子ども」を意味し、ハングルで表記される純粋朝鮮語である。方定煥が好んで使った新しい言葉であり、方定煥によって普及し定着したとされる。「オリニ」という言葉は、子どもたちの人格を尊重する新しい価値観が表現された尊称である。年長者を敬う儒教規範と家父長制が支配した伝統的な朝鮮社会では尊重されなかった幼い人々の価値を認めた近代の言葉といえる。

『オリニ』誌を創刊し、抑圧されてきた子どもたちを尊重する「オリニ」という言葉を普及させた方定煥は、児童文学運動を始める以前に、まずは「天道教少年会」などの少年運動を始めている。そして、これらを母体にしながら 1920 年代以降の朝鮮児童文化・文学運動を推進していった。

２．研究の目的

こうした方定煥が普及させた「オリニ」という近代の新しい言葉に、韓国児童文学の成立期の精神が象徴されている。また、児童文芸誌として 1923 年に『オリニ』が創刊されたばかりでなく、同年、「オリニナル（子どもの日）」が朝鮮少年運動協会によって創設されたように、韓国児童文学の成立期には、強力な少年運動というものが同時に存在している。

方定煥は、1922 年 7 月に世界名作童話集『愛の贈り物』を刊行し、翌年の 1923 年 3 月に児童文芸誌『オリニ』を創刊した韓国のオリニ文学の開拓者である。しかし、これらの新しい朝鮮のオリニ文化の創造は、方定煥が開闢社の東京特派員、あるいは天道教青年会東京支会設立のために東京に渡った時期（（1920 年 9 月頃～1923 年 7 月頃））の仕事である。

そのため、渡日後に入学した東洋大学専門部文化学科（1921 年 4 月～1922 年 3 月在籍）の教育内容や、当時東京で流行していた何種類もの芸術的児童文芸誌、童話集、童謡・児童劇・口演童話会・児童博覧会・子どもデーなどの行事や日本の児童文化に大きな影響を受けたはずである。

方定煥の東京滞在時における日本の児童文化の影響に関しては、1990 年代の李在徹や李相琴などの研究でもすでに指摘されていたし、2000 年以降、金英順、李姃炫、朴鍾振など日本の大学で博士学位を取得した新しい世代の研究者が日本語の一次資料を調査し、実証的な研究成果を次々と発表している。

これらの研究によって、方定煥が『愛の贈り物』で翻案した世界名作童話の日本語底本や、『オリニ』で翻案したグリム童話の日本語底本などが具体的に明らかにされ、韓国児童文学成立期における日本児童文学との関係史に関しては、近年研究が大幅に進展した 。

しかし、上記の先行研究では、研究対象が児童雑誌と童話集に限られた書誌的実証研究であるという限界があり、朝鮮のオリニナル（子どもの日）創立もからんだ少年運動や児童人権運動や児童観といった思想的側面からの日韓比較研究には至っていない。

そこで、本研究では、朝鮮の少年運動はやはり植民地朝鮮における独立運動・民族運動の少年版の側面も当然担いながらも、一方では、伝統的な朝鮮社会特有の年少者に対する抑圧や前近代的因習からの解放を目指す近代的な人権運動であったといえる点を日本の1920年代と比較しながら明らかにする。

さらに、そうした近代的な児童人権運動としての少年運動は、朝鮮における近代的児童文芸誌発行の思想的背景や童話観の成立にも深く影響を及ぼしたものであり、朝鮮児童文学の特徴を理解するうえで最重要項目であることを明らかにしようとした。

３．研究の方法

主として韓国での現地資料調査、史跡踏査、聞き取り調査を行いながら、原典の翻訳と資料の整理分析を行い、研究成果を公刊する。

方定煥研究に関しては、方定煥研究所所長張貞熙博士の協力を得ながらソウル市内の史跡踏査をするほか、東京時代に入学した東洋大学や、下宿先として記録の残る白山、早稲田、大塚、千駄ヶ谷などの踏査を行う。

４．研究成果

（１）2022～23年：オリニナル（子どもの日）100周年

韓国では、2022～23年にかけて「オリニナル（어린이날）100周年」を記念する様々な行事が全国各地で執り行われた。たとえば、2022年４月30日～5月31日までの一か月間、日本の文部科学省に該当する文化体育観光部は、社団法人方定煥研究所、社団法人オリニ図書研究会、オリニ文化連帯（어린이문화연대）、オリニ青少年図書作家連帯（어린이청소년책작가연대）、天道教中央総部、社団法人韓国児童文学人協会などの六つの機関と共に「2022オリニ文学週間」を行った。

「オリニ」は子どもを意味する純粋朝鮮語で、「オリニナル」とは子どもの日（オリニ（어린이／子ども）＋ナル（날／日））のことである。韓国では、1961年に制定公布された児童福祉法によって５月５日を「子どもの日（オリニナル）」と定め、1970年に「官公庁の祝日に関する規定」により公休日に指定されて以来、５月５は子どもたちの幸せを願う未来志向的な祝日になっている。

この韓国の５月の行事として定着しているオリニナルは、そもそも方定煥が1921年５月１日に少年運動・児童文化運動として結成した天道教少年会の設立一周年を記念して1922年５月１日に子どもの日の街頭宣伝をしたことと、続く1923年５月１日に天道教という枠組みを外して全国規模に拡大した「少年運動協会」を発足させながら第一回オリニナルを開催し、同日東京でも方定煥が主催する朝鮮人留学生による少年問題研究会「セクトン会（색동회）」の創立発会式を行ったことを起点としている。そのため、2022・23年は100周年に該当するのである。

（２）1921年２月：天道教中央大教堂の竣工、５月：天道教少年会の発足

1919年の３・1独立運動によって、天道教はカリスマの孫秉熙を捕らえられた代わりに、朝鮮総督府の文化統治政策への転換の波に乗って大きく発展していった。3・1独立運動の

翌年、1920 年 6 月には『開闢』を創刊させ、9 月には方定煥を東京特派員として派遣している。

方定煥が東京で天道教青年会東京支会を創立させた頃、朝鮮では天道教中央大教堂が竣工した。日本人の中村與資平による設計で、赤煉瓦に白い花崗岩がアクセントとなった美しい近代建築物である。1898 年に建築された朝鮮初のカトリック教会堂である明洞聖堂と、1926 年建築の朝鮮総督府と合わせて、1920 年代には京城三大建築物と呼ばれた。1921 年 2 月竣工の天道教中央大教堂は、多くの天道教信者の寄付により建設されたのだが、天道教第三代教祖・孫秉熙によって 1918 年に着工された後、翌 19 年の 3・1 独立運動資金としてもこの募金が使われたため、当初の予定より遅れての完成だった。

完成後は、天道教の宗教行事に限らず広く講演会や芸術公演などに使用され、日本統治下の朝鮮における重要な集会所、公会堂として使用された。方定煥もここで講演会を行っている。『開闢』の編集も行われた。現在、ソウル特別市有形文化財第 36 号に指定されている。

現在、天道教中央大教堂が建つ鍾路区慶雲洞に行くと、その敷地周辺には、史跡を示す記念碑をいくつも目にすることができる。

また、1921 年 5 月 1 日には、金起田と方定煥、朴来弘が主導して天道教青年会少年部の事業として「天道教少年会」が作られた。少年会では音楽や演劇、学習運動が行われ、のちのオリニ運動の基盤となった。こうした活動もみな天道教中央大教堂で行われた。

（3）1921 年 4 月：東洋大学専門部に入学した方定煥

1920 年秋に渡日した方定煥は、『開闢』の東京特派員として記事を書き、天道教青年会東京支会の活動をしながら、1921 年 4 月 9 日に東洋大学専門部に入学している。そして翌年の 1922 年 3 月 30 日には退学した。

方定煥は東洋大学に入学してから早くも 2 か月後の 6 月には、夏休み期間を利用して朝鮮に帰郷している。慶雲洞の天道教中央大教堂はもちろん、全羅道や黄海道など朝鮮全土での巡回講演会を行った。そして 11 月末までの約半年間という長い期間を方定煥は朝鮮で天道教青年部東京支会巡回講演会講師として、また、天道教少年会の活動で公演童話会を開催しながら過ごした。

「方定煥の東京留学」と一般に言われるが、 史料を丁寧に読み込むと、東洋大学専門部に在籍していたのは 1 年間で、そのうちの 6 か月は朝鮮で巡回講演会や公演童話会の活動をしていたことが分かる。

（4）1921 年 4 月の『幼児教育』創刊 20 周年行事 ――「児童保護宣伝」＝「子供日」

方定煥が東洋大学に入学してまもない 1921 年 4 月 23 日、日本幼稚園協会主催「児童保護宣伝」が開催された。これは、幼稚園教育の月刊専門誌『幼児教育』創刊 20 周年を記念した行事であった。

果たして方定煥は、20 年を重ねた日本の幼児教育の歴史を背景に開催された東京の「児童保護宣伝」の行事をどのように見たであろうか。子どもの旗行列や、宣伝カーや宣伝ビラ配布活動を直接見たであろうか。日比谷公園や上野山下、四谷見附、駿河台下など東京市 12 か所で宣伝ビラが飛ぶように配布され、ある幼稚園では「児童保護宣伝」の短冊をぶら下げた風船が万歳の声とともに一斉に空へ飛ばされた。

翌日の『東京朝日新聞』には、「児童保護の宣伝」「ビラ七十万」「昼夜の講演会」「将来は児童専用の公園や娯楽場所を設立する」という見出しが目を引く記事が掲載されている。

こうした 1921 年「児童保護宣伝」行事は、その前年の 1920 年 11 月 26 日の日本幼稚園協会評議員会にて開催が決定されたものである。内務省、文科省官僚も出席する中で、託児所保母養成機関の設立決議などとともに、『幼児教育』20 周年記念行事として「大講演会を開き、名士の講演とともにこの期を利用して大々的に幼児の養護、その教育の宣伝をし、特に「子供日」ともいふべき日を定めて、充分、世の注意を促したい」(「日本幼稚園協会評議員会」『幼児教育』第 20 巻第 12 号、1920 年 12 月号、p. 426）目的で決定された。

1921 年「児童保護宣伝」行事のことを「子供日」と呼んでいることに注目したい。この日本語を朝鮮語に翻訳すると‘어린이날’（어린이（オリニ／子供）＋날（ナル／日））＝オリニナル（子どもの日））ということになるのである。方定煥は、この 1921 年「児童保護宣伝」＝「子供日」から、朝鮮の「オリニナル」を着想したと考えられないだろうか。「オリニナル」は「子供日」の直訳であるし、行事の形態も類似している。ビラをまき、行列を行い、講演会を行うというイベント開催方法は、朝鮮のオリニナルもほぼ同様であった。

ただ、ここで注意しておくべきは、日本の「子供日」は内務省、文科省、帝国教育会、官立幼稚園などが主導した、子どもの保健・衛生・保育・教育・福祉に関する啓蒙事業だったことである。

たとえ名称や形態は似ていても、朝鮮の「オリニナル」は、3・1 独立運動の中心的役割を果たした革新思想を持つ民衆宗教団体であり、社会改革運動と民族独立運動の推進体である天道教の幹部だった方定煥が行ったものであり、日本の官主導、中央主導の「児童保護」とは正反対の、抑圧からの解放を求める民衆運動の性質をもつものだった。この点は非常に重要な違いであると強調したい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Otake Kiyomi	４．巻 8
２．論文標題 A Comparative Study on Children’s Day between Korea and Japan, focusing on around 1922	５．発行年 2022年
３．雑誌名 RESEARCH ON BANGJUNGHWAN	６．最初と最後の頁 135～180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.33957/BJH.2022.08.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大竹 聖美	４．巻 26
２．論文標題 1923年、児童雑誌『オリニ』創刊と朝鮮少年運動　―方定煥の朝鮮の子ども認識と「オリニ賛美」―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東京純心大学紀要　現代文化学部	６．最初と最後の頁 1～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57503/0000000007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大竹 聖美	４．巻 27
２．論文標題 方定煥と朝鮮少年運動協会の＜オリニナル＞ ― 1920年代東京の「児童保護宣伝」（1921年4月・11月）、「児童愛護デー」（1922年5月）と比較して―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 東京純心大学紀要　現代文化学部	６．最初と最後の頁 1～20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57503/0000000009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大竹聖美	４．巻 45
２．論文標題 近代韓国児童文学の開拓者・方定煥と現代韓国絵本の開拓者・柳在守の共通点ー韓国の児童図書出版における個の尊厳とアイデンティティー	５．発行年 2022年
３．雑誌名 口承文芸研究	６．最初と最後の頁 61-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大竹 聖美	4．巻 25
2．論文標題 韓国児童文学成立期の探究と1921年前後の方定煥の足跡 ー 伝記的考察と史跡踏査を中心に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 東京純心大学紀要　現代文化学部	6．最初と最後の頁 1～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57503/0002000018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大竹 聖美	4．巻 24
2．論文標題 近代朝鮮における＜童話＞の形成過程 —— 方定煥が翻案 したイソップ寓話「ソウルねずみと田舎ねずみ」と創作童話 「田舎ねずみのソウル見物」の考察 ——	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東京純心大学紀要　現代文化学部	6．最初と最後の頁 1～19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57503/0002000019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　5件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 大竹聖美
2．発表標題 ＜子どもの日＞日韓比較研究ー1922年前後を中心に（原文ハングル）
3．学会等名 国際方定煥フォーラム （主催：ソウル大学国語国文科、方定煥研究所）（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 大竹聖美
2．発表標題 韓国の絵本の30年～『山になった巨人』リュウ・チェスウから国際アンデルセン賞受賞作家スージー・リーまで～
3．学会等名 高麗博物館（招待講演）
4．発表年 2022年

１．発表者名 大竹聖美
２．発表標題 21世紀日本の絵本の変化と発展（原文ハングル）
３．学会等名 オリニナル100周年記念国際学術大会（主催：韓国児童青少年文学学会）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 大竹聖美
２．発表標題 韓国の作家は＜日中韓平和絵本＞で何を描いたか
３．学会等名 高麗博物館（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 大竹聖美
２．発表標題 東アジア絵本作家の平和への視座―日中韓平和絵本交流発足の背景―
３．学会等名 第 15 回アジア児童文学大会ー韓国・大邱ー（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 大竹聖美
２．発表標題 「韓国児童文学」の形成過程 ―1920 年代、方定煥の再話と翻案
３．学会等名 日本児童文学学会第59回研究大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 大竹聖美
２．発表標題 韓国の児童図書出版における 神話と昔話の諸相―アイデンティティーの模索と世界化―
３．学会等名 日本口承文芸学会第78回研究例会（招待講演）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計7件

１．著者名 ファン・インチャン、イ・ミョンエ、おおたけ きよみ	４．発行年 2023年
２．出版社 光村教育図書	５．総ページ数 41
３．書名 ぼくって、ステキ？	

１．著者名 キム・ジアン、おおたけ きよみ	４．発行年 2023年
２．出版社 光村教育図書	５．総ページ数 49
３．書名 チューリップホテル	

１．著者名 パク・ジヒ、おおたけ きよみ	４．発行年 2021年
２．出版社 光村教育図書	５．総ページ数 43
３．書名 ぼくが見える？	

1．著者名 コ・ヒヨン、エヴァ・アルミセン、おおたけきよみ	4．発行年 2020年
2．出版社 主婦の友社	5．総ページ数 40
3．書名 ママとうみのやくそく	

1．著者名 おおたけきよみ訳	4．発行年 2019年
2．出版社 光村教育図書	5．総ページ数 25
3．書名 『ママは100めんそう』	

1．著者名 おおたけきよみ訳	4．発行年 2019年
2．出版社 光村教育図書	5．総ページ数 30
3．書名 『イワシ大王のゆめ ： 韓国のむかしばなし』	

1．著者名 おおたけきよみ訳	4．発行年 2019年
2．出版社 福音館書店	5．総ページ数 41
3．書名 『チェクポ ： おばあちゃんがくれたたいせつなつつみ』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関